

令和6年度 学校経営計画・学校評価			■4月4日提出	■10月3日提出	■3月14日提出	学校番号	1	室戸	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)							
スクール・ポリシー	①将来の進路実現に向けて前向きに取り組む生徒を募集します。 ②国際交流活動を通じ、世界的な視野で地域課題解決を図ろうとする生徒を募集します。 ③室戸ユネスコ世界ジオパークの資源を活用し探究の学びをする生徒を募集します。		①少人数指導や効果的なICT活用により、生徒に応じた個別学習を実施します。 ②国際交流活動によりグローバルな視点をもたせ、質の高い授業を実施します。 ③専門科目の資格取得をめざした学習を積極的に推進します。 ④室戸ユネスコ世界ジオパークの資源を活用し探究の学びを推進します。 ⑤個性の伸長を図るキャリア教育を推進します。 ⑥地域貢献のための知識や技能を身につける授業を実施します。								
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)										
		①進路希望を実現するための学ぶ力を育成します。 ②主体的・対話的で深い学びをする実行力を育成します。 ③地域の課題を探究し、地域のリーダーとして活躍する力を育成します。 ④基本的生活習慣を身につけ行動する力を育成します。 ⑤確かな人権意識と豊かな人間性を育成します。									

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
目標にはあと一歩届いていないが、入学時に比べて卒業時には著しく成果が出ている。更なる取組で今以上の学力向上が期待される。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
「立場や年齢、考え方の異なる相手でもその意見を聞き、理解しようとしている」は100%の目標値に対し、92.7%の結果は大変素晴らしい。ボランティアや対外交流においても積極性が顕著である。施設・人材も整っているから、ポートリンカーン高校(オーストラリア)との学術交流を早く始めてもらいたい。		
【チーム学校】	評価	【 A 】
学校側はよくやっている、生徒も地元との交流によく努めている。学校の振興について、外国人との交流や県外からの入学生の数値が目標値を上回っていることは、学校の魅力化・室戸市のまちづくりに大きく寄与している。このことは、校長先生が先頭に立ち、教師・生徒・地域の方々とオール室戸高校で知恵を出し合い努力を重ねた結果である。		

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分									
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○「C層以上の生徒の増加」 ・1年(R6年度1年4月)→(R6年度1年11月)目標12ポイント増加 ・2年(R5年度1年4月)→(R6年度2年11月)目標17.1ポイント増加 ○「授業外学習時間の増加」 ○「将来のための勉強をしている生徒の増加」 ○地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる生徒65%以上(R5:60.4%)	○進学補習および室戸市との連携による「公設塾」の活用 ○「めあて・思判表・振り返り」の3項目を意識した授業改善 ○ICT(すらら等)や学習支援員を活用した個別最適化学習を推進し、学びのシームレス化を図る。 ○産業社会と人間(室戸学)、ジオパーク学、課題研究において探究スパイラルを回す指導	C	C層以上生徒 ○R4入学生徒 入学時→3年次 4.3ポイント増加 ○R5入学生徒 入学時→2年次 2.1ポイント低下	○学習支援員との連携 ○すらら活用のための教員研修実施 ○公設塾出席への細かな声掛け	B ○C層以上の割合 ・現1年(1年4月)→(1年11月)6.2ポイント増加 ・現2年(1年4月)→(2年11月)26.5ポイント増加 ○授業外学習時間 R5日→R6平日9分休日10分増加 ○「将来のための勉強をしている生徒の増加」 ○地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる生徒(R5:60.4→R6:78.1%)	○1年生・2年生ともに向上しているが、1年生はA層が減少しており、生徒のモチベーション維持が重要と思われる。すららをさらに活用したい。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	県調査(高校3年)において ○「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」100% ○「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」70%以上	○国際交流(異文化理解) ○生徒会、部活動を中心にしたボランティア活動や地域貢献活動への参加 ○課題研究(対話的な学びや他者との協働) ○インターンシップ ○サマーセミナー(大学との連携事業) ○「インタビューシップ」のポスターセッション		A ○留学生等との合同授業で活発な国際交流を実施した。 ○サマーセミナーは生徒が実行委員に加わり、「センセイ」役としても参加。全参加者も昨年度より40%以上増加した。 ○3年生は、就職・進学に向けて8月中旬に志願先が全員決定しており、それぞれが目標に向かって努力をしている。	○留学生等との交流の機会を増加 ○第2回サマーセミナーへの積極的な参加呼びかけ	C ○「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」92.7% ○「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」46.9%	○ボランティアへの参加が意外と少なく、参加しても意識されていない可能性があり、今後のポイントは「意識づけ」と「確認・記録」かと思われる。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	高校魅力化評価システムによる下記の全項目80%以上 ○地域の魅力や資源について考える(R5:89.6%) ○地域の人や課題などにじかに触れる機会がある(R5:89.6%) ○自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある(R5:84.4%) ○地域をよくするため、地域における問題に関わりたい(R5:69.8%)	○室戸市産業振興課・地元産業界との連携による「インタビューシップ」プログラムの開発・実施 ○探究学習(室戸学・ジオパーク学・課題研究)におけるコーディネータの活用 →地域人材・専門家への接続	C	高校魅力化評価システム結果(7月実施) ○地域の魅力や資源について考える(75.8%) ○地域の人や課題などにじかに触れる機会がある(84.2%) ○自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある(82.1%) ○地域をよくするため、地域における問題に関わりたい(67.4%)	○室戸市産業振興課・地元産業界との連携活動強化 ○探究学習(室戸学・ジオパーク学・課題研究)におけるコーディネータの活用 →地域人材・専門家への接続強化	B ○地域の魅力や資源について考える(R5:89.6%→R6:84.4%) ○地域の人や課題などにじかに触れる機会がある(R5:89.6%→R6:88.5%) ○自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある(R5:84.4%→R6:81.3%) ○地域をよくするため、地域における問題に関わりたい(R5:69.8%→R6:70.8%)	○アンケートの数値は昨年度より少し下がっているが、高い値を維持していることが重要と考え、継続したい。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において、生徒にしっかりと考えさせたうえでまとめさせ、発表させる機会を設定した回数:各教科学期に1回 ○探究学習や国際交流活動は、学びを深めて活用範囲を広げるため、教科横断的な視点で取り組む(10事例以上)	○発表機会を年間指導計画へ位置づける ○産業社会と人間、統・産業社会と人間、ジオパーク学、課題研究、国際交流活動における教科間連携 ○探究推進委員会による進捗管理		B ○産業社会と人間、統・産業社会と人間、ジオパーク学、課題研究、国際交流活動において、複数教員で多面的な指導を実施 ○教育実習や年次研修による授業研修を実施	○公開・参観授業研修を実施し、教科の壁を越えた意見交換	B ○各教科において、生徒にしっかりと考えさせたうえでまとめさせ、発表させる機会を設定した回数:95%実施、3回以上は48% ○探究学習や国際交流活動は、学びを深めて活用範囲を広げるため、教科横断的な視点で取り組む:延べ44例	○発表の機会が少なかったのは年度途中での声掛けが不足していたためと思われ、今後は公開授業等をきっかけに増加を目指す。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地元中学校からの進学率向上(R15(10年後)目標50%) R5:31% ○県外からの入学生を確保(R9(3年後)目標10名) R5:1名	○ALT以外の外国人と交流したことがある生徒50%以上 ○国公立大学への進学実績向上(文理総合系列で30%以上) R5:33% ○探究学習の充実(メディア露出8回以上) R5:5回 ○女子硬式野球部への入部を目的に県外から入学する生徒3名以上(R5:0名) ○海外交流を目的に地元以外から入学する生徒5名以上(R5:2名)	○室戸ジオパーク推進協議会・室戸市友好交流協会との連携による国際交流活動 ○進路指導体制の見直し・探究学習を軸にした推薦制度の活用 ○探究推進委員会による探究学習の見直し・ブラッシュアップ ○女子野球部のSNS発信とスカウト活動 ○地域みらい留学におけるPR方法の見直し ○学校案内の刷新	B	○オーストラリアからの訪問受け入れ実施(2回) ○韓国全羅南道生徒との交流活動実施 ○龍馬学園の留学生6か国29名との交流実施 ○東京・大阪での勧誘活動・オンラインによる説明会・県外からの学校訪問・体験活動実施	○世界ジオパーク関係地域への生徒派遣(インドネシア) ○日本ジオパーク関係地域への生徒派遣(関東)	A ○ALT以外の外国人と交流した生徒89% ○国公立大学への進学実績R5:33%→R6:17% ○探究学習の充実(メディアへの露出)R5:5回→R6:探究のみで7回、新聞掲載全21回 ○女子硬式野球部へ県外から入学(R5:0名→R6:6名予定) ○海外交流を目的に地元以外から入学(R5:2名→R6:6名)	○外国人との交流をしていない。11%のメンバーは、日常的にも会話の少ない生徒と思われる。 ○国公立大学へは例年30%越えを目指したい。 ○県外からの募集は、軌道に乗っており、継続したい。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 若年教員が多く、法令等の理解不足が懸念される ○校内研修の実施回数 1回/学期 ○不祥事防止委員会の実施回数 1回/学期 ○笑顔ある職場づくり ○やりがいの創出	○関係法令や過去の通知文の定期的な周知 ○教育実習生受け入れ前のハラスメント研修 ○「職務上の義務」、「身分上の義務」の徹底 ○不祥事防止強化月間の設定 ○管理職による声掛け、積極的なコミュニケーション ○前年踏襲型からの脱却・提案型の推奨・適切な評価	B	○教育実習生受け入れ時のハラスメント防止の徹底 ○不祥事防止強化月間を設定し、毎週、テーマを絞った研修会を実施 ○管理職による日常的な声掛け	○校内研修実施の継続 ○日常的な声掛けを継続	A ○校内研修の実施回数 1回/学期 ○不祥事防止委員会の実施回数 1回/学期	○ほぼ、予定通り実施できた。年間の計画に入れておくことが重要と考える。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○時間の意識(タイムマネジメント) ○業務の平準化 ○教育の質の向上を意識 ○教員のウェルビーイング向上	○時間外在校時間 ・45時間/月 を超える教員5名以下、延べ25名以下(R5:10/22名、延べ53/264人) ・360時間/年 を超える教員5名以下(R5:10名)	○ノー残業デーの設定(毎週水曜日) ○長期休業中の学校閉庁日の設定 ○担当業務割当の見直し(平準化を意識) ○部活動ガイドラインの周知・遵守 ○等積変形(仕事先取りの意識)の徹底 ○コーディネーター活用による探究学習の負担軽減	C	○働き方改革の案を教員につのり、木曜の掃除カット・課題テスト実施の見直し・定期テストの監督の工夫を実現 ○時間外・休日の学校滞在時間が1月あたり45時間を超える教員は延べ37名(9月末時点) ※R4同時期 16名 R5 26名	○さらに働き方改革の意見を求め、現実化する ○ノー残業デーの徹底	B ○時間外在校時間 ・45時間/月 を超える教員(R5:10/22名、延べ53/264人 R6:15/23名、延べ27/276人) ・360時間/年 を超える教員5名以下(R5:10名 R6:3名)	○学校行事等でメインを担当する教員はどうしても勤務時間が長くなる傾向にある。やりがいにも繋がり、プラス面もあるが、マンネリ化しないよう、仕事の分散を組織的に検討したい。